

特 253
551

有畜農業と婦人

知多・三和

女子農青年會



始



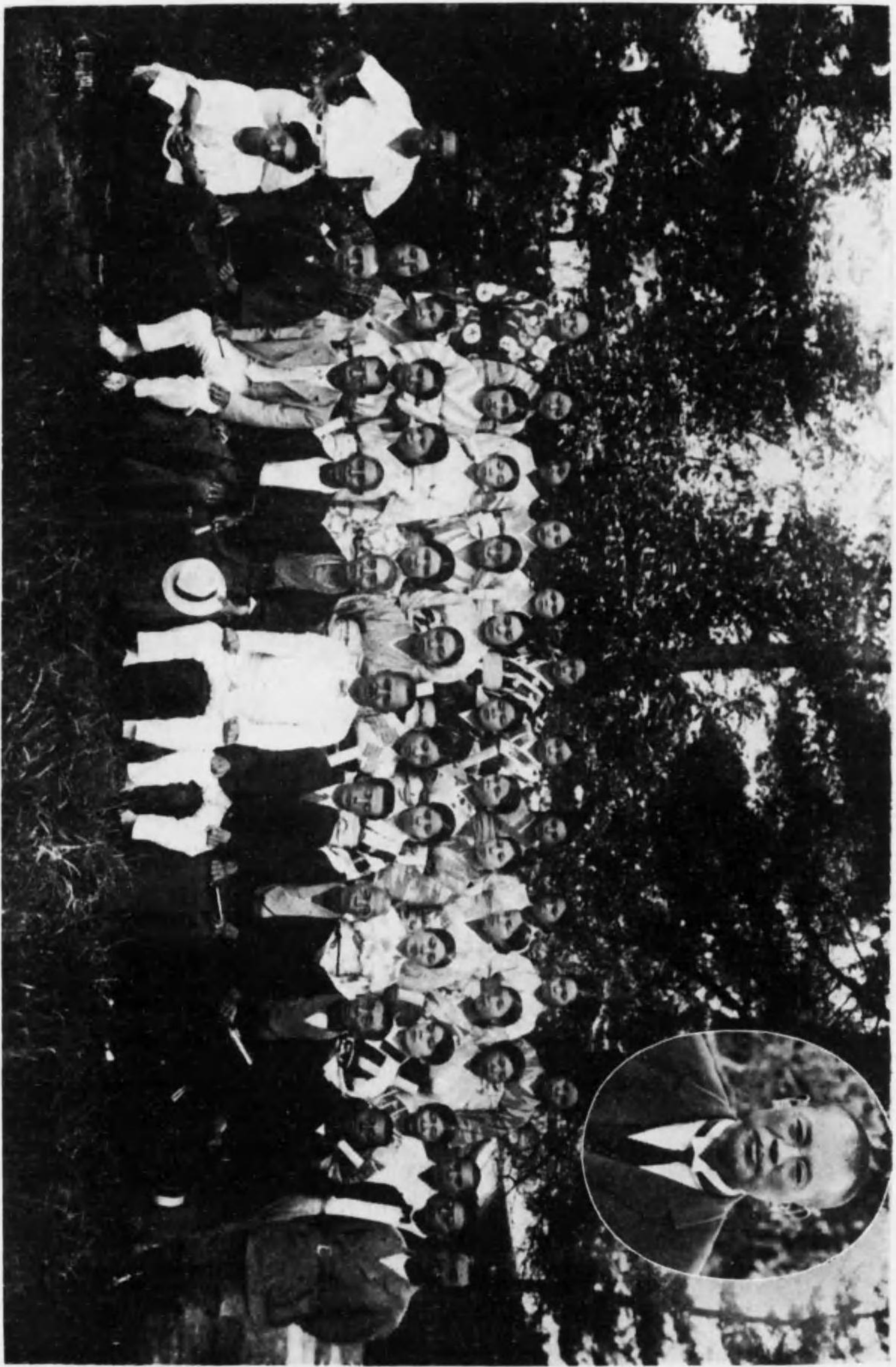
特 253
551

目次

一	有畜農業實務講習會に就て	竹内親儀	(一)
二	有畜農業と婦人	參木晋七郎	(五)
三	養牛	渡部順	(八)
四	養豚	渡部順	(一八)
五	多産鶏の鑑別	沼田績	(三三)
六	料理實習	沼田績	(四五)
七	感想集	講習生	(七七)



講 習 會 關 係 者

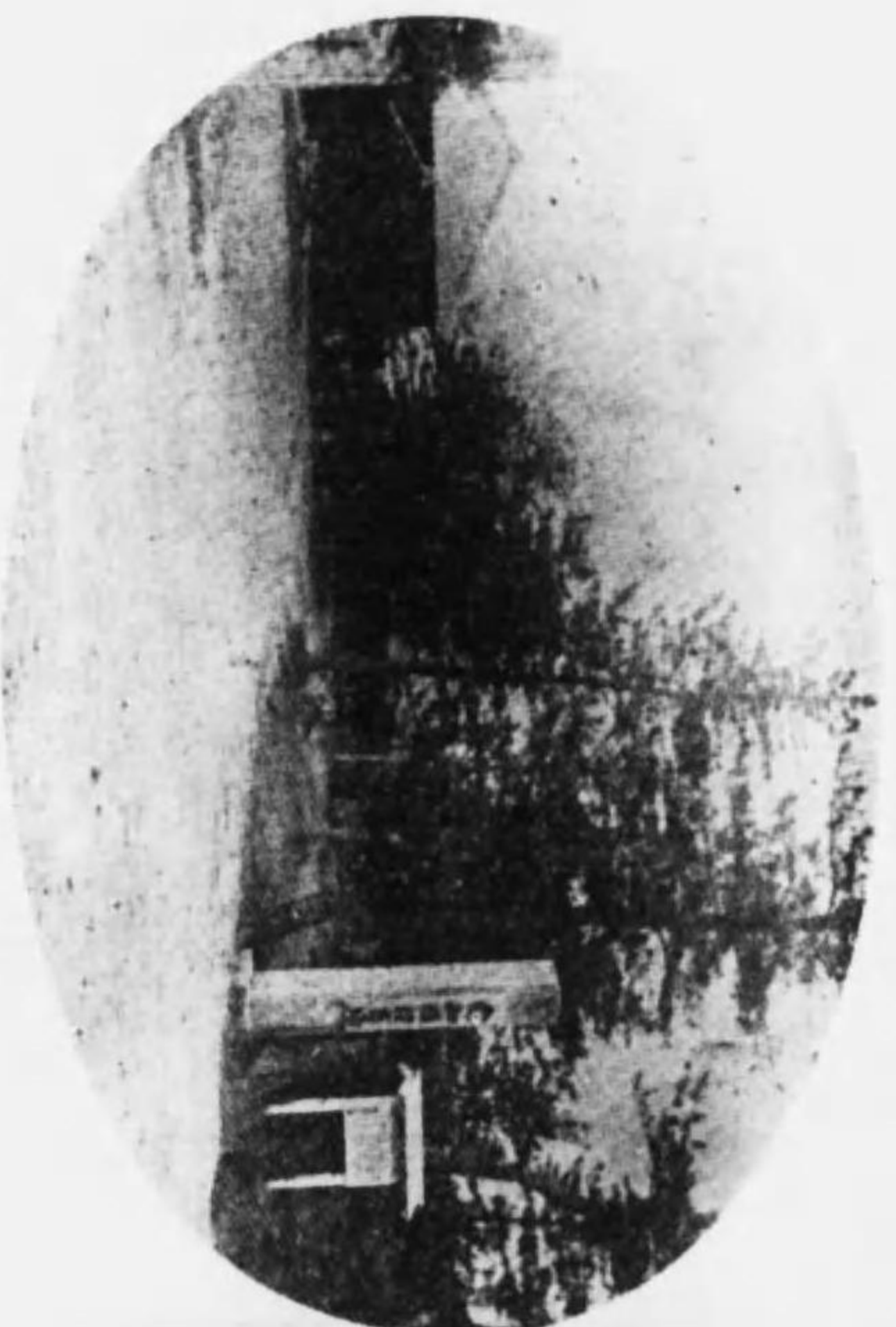




渡部先生
青木先生
沼田先生



長場木 參



種畜場正門



養鶏の講義



塚洗心

右者本場が有畜農業
實務講習會所定ノ科目
ヲ修得セシトテ證
書
昭和八年八月二日
農務講習會所長 松本 春雄



一、有畜農業實務講習會に就て

竹 内 親 儀

本村女子青年が農村女子講習會の一課程として岡崎市美合町愛知縣種畜場視察を行つたのは本年七月二日であつた。一行は寺木技師に案内せられて場内を視察し、廣大な規模と農民精神の充實振りとに驚異の眼を見張つた。而して種畜場に於て女子青年の爲に有畜農業實務講習會を開催せられると聞いて、一行の情意は大いに動いた。

歸來西山校長、片山技手を中心として本村女子青年にとつて劃期的な種畜場宿泊講習會が企劃せられた。即ち先づ種畜場に講習會開講を懇望し、次いで各字總代會に後援を依頼し、左記計畫の下に參加希望者を募ることになった。

有畜農業實務講習會計畫
一、目的 本講習會ハ將來農村ノ堅實ナル主婦トナルベキ女子青年ニ左記要項ノ徹底ヲ圖ルヲ以テ

目的トス

1 皇國精神ノ涵養

2 有畜農業ノ趣味ノ喚起

- 3 有畜農業經營ニ關スル技能ノ習得
- 4 勤勞主義ノ自覺
- 二、講習生ノ資格
 - 講習生ハ三和村女子青年團員ニシテ聯區小學校長ノ推薦ニ係ルモノトス
- 三、講習人員 三拾名
- 四、講習場所 愛知縣種畜場
- 五、講習期間 昭和八年八月九日ヨリ十二日迄四日間
- 六、講習科目
 - 1 學科 有畜農業ト婦人、養牛、養豚、養鶏、毛織物ノ取扱
 - 2 實習 鶏ノ解体、多産鶏ノ鑑別、孵化育雛、採卵鶏ノ飼育、農業作業、簡易料理
- 七、講習生心得
 - 1 講習生ハ八月九日午前九時迄ニ愛知縣種畜場ニ集合ノ事
 - 2 講習生ノ服裝ハ質素ヲ旨トスル事
 - 3 講習生ハ左記ノモノ持參ノ事
 - 作業服、地下足袋、靴下(又ハ脚絆)手帳、鉛筆、手拭、寢衣、割烹着
 - 4 八月九日午前十時入場式ヲ行フ

5 講習生ハ場内ニ宿泊スル事

6 講習生ハ午前四時起床直チニ洗面及室内ノ整頓ヲナシ、午前五時神社前ニ集合禮拜ノ式後五時二十分朝食ヲナシ、午前六時ヨリ實習(但シ十日ハ學科)ニ着手スルモノトス

7 講習修了者ニハ修了證書ヲ授與ス

かくて各字總代、各字幹事ノ熱誠の効果著しく參加希望者續出したが、其の中左記三十二名を簡拔して種畜場へ派遣することになつた。

講習生名簿(五十音順)

伊藤ふくの	片山 菊子	片山きぬ江	片山八重子	片山つま子
片山ゆき子	片山 之子	片山百合子	神長きよこ	桑山 巴
栗本 文子	竹内 きぬ	竹内たね子	竹内智恵子	竹内千代乃
竹内 てる	竹内 久子	都築まけ江	都築まも江	富田 春子
西本 玉子	蛭川あや子	牧野ふく江	松山よし子	水谷しず江
水谷 す江	水谷 つた	水谷はるの	皆川 りの	村上 きり
森田ふく江	盛林 辻枝			

八月九日一行は田村郡農會技手、西山校長、片山技手等に附添はれて種畜場ニ到着し、午前十時から入場式、終つて場内を巡覽し、正午からいよいよ講習會の課程を履修することになつた。

日 課 表

日	時	内容
九日	午前四時	起床
十日	午前四時	起床
十一日	午前四時	起床
十二日	午前四時	起床
九日	午前五時	起床
十日	午前五時	起床
十一日	午前五時	起床
十二日	午前五時	起床
九日	午前六時	起床
十日	午前六時	起床
十一日	午前六時	起床
十二日	午前六時	起床
九日	午前七時	起床
十日	午前七時	起床
十一日	午前七時	起床
十二日	午前七時	起床
九日	午前八時	起床
十日	午前八時	起床
十一日	午前八時	起床
十二日	午前八時	起床
九日	午前九時	起床
十日	午前九時	起床
十一日	午前九時	起床
十二日	午前九時	起床

此の間田村郡農會技手、片山村長、西山、榊原兩校長、諏訪、皆川村農會正副會長、村上矢田、片山久米、水野前山、桑山宮山の各總代は親しく來場して講習會を視察せられ、片山技手は前半二日間、富田書記は後半二日間、不肖は全四日間講習生と體驗を共にした。

惟ふに種畜場の精神は皇國主義、有畜農業主義、勤勞主義の三大主義に要約せられる。追進神社の大前に懸る日章旗は朝の神前行事に於る皇國運動と共に皇國主義の熾烈な表現である。さ霧につ、まれた種畜場の朝は拍手―祝詞―神ながらのま、に明けて行く。悠々と揚がる日章旗。皇國運動の豪快な氣吹は場内人畜の精靈をゆり動かす。人畜一体の有畜農業主義は此處に啓機を發してゐる。午前六時から午後六時半迄休憩時間を除いた正味十一時間の勤勞、なほ夜は午後八時から九時迄一時間の學科、是等の體驗あつて始めて種畜場の農民精神を了得することが出来る。四日間―正味三

日間の講習會は種畜場の農民精神を体認するには餘りに短い憾みはあつたが、しかも、猶女子青年に與へた感化は甚大なものであつた。此の講習會に依つて女子青年に與へられた警打は今全村更生途上に在る本村にとつては是非培はねばならない尊い契機である。此處に參木場長始め種畜場諸賢の御好意に依つて、種畜場宿泊講習會記念として此の冊子を刊行する所以は、此の尊い契機啓培を希念するが爲である。

一、有畜農業と婦人

參 木 晋 七 郎

農村の行詰りは随分久しい間の問題であり、今や其の頂點に達して居ると申しても良いのである。斯るが故に新聞紙上にて報導せらる、如く此が救済策に朝野を問はず絶叫せられて居るのである。農村更生の策は他力と自力と相俟つて初めて遂行せらるゝものであるが、自力の無い所即ち最早生きんとする力の無き病人に注射投薬しても其効果の無いのと同然である如く、更生の自力無き農家農村は到底浮ぶ瀬が無いのである。斯るが故に今日自力更生が絶叫せらるゝ所以である。打續く經濟界の不況により農産物の下落は深刻化し到る所赤字の經營にて困た事であり、此の際凡ての農産物の騰貴は誰れしも望む所であるが、今日斯る事を期待し自家經營の更生を夢みて居る人には、自力の念が乏しく、他力本願の人であり、更生の出來ぬ人であると申て差支え無いのである。此の際

自力更生に進む人は農産物の騰貴を望む前に生産費の遞減に努力し、尙消費經濟の徹底に精進して居る人である。今日餘裕綽々たる黒字の經營をなし、農業は引合ふものである儲かるものであるとの信念で農業にいそんで居る人の經營に於ては、必ず生産費の遞減と消費經濟が徹底して居るのである。然して生産費の遞減と消費經濟の徹底の根本方策は、要するに自力供給即ち自給自足經濟の徹底である。此が徹底は農業の有畜化により初めて遂行し得るものであり、今日農村更生策として有畜農業普及の必要を叫ぶる、も當然の事である。斯るが故に縣下所有畜農業の普及に猛進せられて居るが、普及發達が割合に緩慢なる所以は種々なる原因もあるが、其の中に於ても農村婦人の家畜の農業經營に對する利用的價値に就き自覺の少ない事も大なる原因である。私の所は事業の根本的使命は有畜農業の普及にありませう、此が使命の貫徹を期する上に於て農村の男子青年諸君に有畜農業の理解を願ふために年々十數回にわたり其の講習を實施して居るのでありますが、如何しても之が徹底を期する上に於ては、女子青年方の自覺を待たなければ不可能なる事を確信して居りますので、昭和六年度より女子青年の有畜農業實務講習の實施し始めた所以であります。家畜家禽が農業經營上に及ぼす其の力たるや、實に莫大なるものであり、即ち肥料の自給又は勞力の自給或は残滓物の利用更生とか金融の圓滑とか尙進んでは臺所の有畜化により食料の改善とか等自力更生の根源たる自力供給の力は家畜の力により立派に解決がつくのである。以上の如き家畜の偉大なる力を充分に發揮せしむるに最も適して居るのは婦人の愛の力であり、又綿密なる婦人の頭である。婦人の母性愛を家畜に注がる、なれば、必ず家畜は吾々人類のために自分の一生涯を犠牲に

供し報ゆるものであり、即ち家畜により恵まる、ものである。家畜に愛なき有畜農業經營者は眞の有畜農業でなく、又恵まれざる經營者であり、更生の出来ぬ農家である。婦人の力なくしては到底良家畜の生産は望む事は不可能である事は、天下到る所事實が雄辯に證明して居るのである。今日は農村の基礎の立直の時であり、如何なる不況の風が襲ひ來るも赤字を他所事に見る經營に入る時である。夫れには儲ける精神を捨て儲かる精神で行くべきであり、即ち生産費の遞減に努力すると共に消費經濟の徹底を期する事であり、此が婦人の愛の力により家畜の利用的價値の發揚を待ち初めてなし遂げ得るものである。極論するなれば今日農家を救ふものは家畜の力であり、其の力を發揮せしむるものは婦人の愛の力であるが故に、農村の自力更生の原動力は婦人の力にありと申しても差支へないのであり、自分は斯く信する者である。三和村農會が多額の費用を投じ種畜場に於て女子青年方の講習を實施した目的も茲にある事であり、従つて講習を終了した皆さん方も、自分の使命を自覺せられたるは勿論責任の重大を感じられた事と信するのである。三和村を救ふ者は吾々婦人の愛の力であるの信念を以て農道に精進されん事を切望して居る者であります。

三、養 牛

渡 部 順

牛の大体について申し上げ度いと思ひますが、知多郡は乳牛が多く飼はれておりますから、お乳のことに付いて特に心得を申して見ます。

牛乳の良し悪しの見分け方は

- 一、牛乳壺を横にして壺の壁が白く不透明に曇り細い粒が澤山下るのは良い牛乳です。
 - 二、六〇%アルコール少量と同量の牛乳を混合し大きな凝りの出来るのは悪い乳です。
 - 三、悪い牛乳は煮ると凝ります。
 - 四、静置して壺底に汚物の沈澱するのは悪い牛乳です。
 - 五、青味や赤味のある乳、鹽味や苦味のある乳、悪臭のある乳は皆悪い乳であります。
- 牛乳を用ひらるゝにはラツパ飲みはいけません、食後とか他の食物と一所に味はつて少しづつ、常に用ひらるゝようにするのが一番よい方法です。

牛乳で小供をお育てなるには小供の強さ弱さ又は身体の重さ軽さによつて違ひますが、夫々に加減せねばなりません。別表はほんの一例に過ぎませんが、一應御参考迄に挙げておきましたから、若し必

要な時は専門の小児科のお医者さんに御相談になつて失敗のない様にして下さい。中には御自分で無茶なお手加減をなされて取り返しのつかぬ失敗をなされ直ぐ牛乳に罪をきせてしまひ、牛乳が悪いから下痢を起したとか病氣になつた等申さるゝ方がありますが、牛乳屋も相當一生懸命善良なものを作つておる譯でありますから、皆さんとしても又よい牛乳をお選定になつて最もよい方法でお用ひを願ひ度いのです。

乳 児 人 工 營 養 實 施 例 表

生後ノ月令	混合割合		與ノル時間	備 考
	牛乳	砂糖		
第一日ヨリ 第七日迄	65	15	二時間半オキ	第一日は薄い番茶又は砂糖湯を用ふ。 第二日以後は本表により一日八回。
第15日目	85	20	同	一日八回
満 1ヶ月目	100	35	三時間オキ	同 七回
2ヶ月目	130	50	三時間半オキ	同 六回
3ヶ月目	135	65	同	同
4ヶ月目	155	80	四時間オキ	一日五回

で生む人間より少し多産の所謂子實の多いものであります。故に豚をお飼ひになるには乳の数の多い豚をお求めになるのが豚の撰擇上に大切なことであります。

此の妊娠中の母豚の餌は次の様にして與へますと理想的であります。

米糠 四〇、穀 二〇、玉蜀黍 二〇、大豆粕 一〇、魚粉(魚粕)一〇

の割合に混合したものを一日三疋位ひと草を少し及び食鹽を少量を與へます。尙出來得れば石灰若は過燐酸石灰の様なものを少量與ふれば至極理想的であります。

生れた仔豚は普通八―十二ヶ月で一人前になりますから夫々良縁に嫁し付けるのであります。これ迄の餌は次の様に與へるのも一策であります。

月令	生後	休	重	米	糠	醬油粕	大豆粕	根菜類
二―三ヶ月			四貫	五〇匁	一五〇	五〇	五〇〇	
三―五ヶ月			一〇	二〇〇	三〇〇	五〇	一、〇〇〇	
五―六ヶ月			一五	三〇〇	四〇〇	七〇	一、〇〇〇	
六―八ヶ月			二〇―三〇	二〇〇	五五〇	一〇〇	一、五〇〇	

時間がありませんから今日は飼ひ方の一部のみお話しして又申し上げること、します。

五、多産鶏の鑑別

沼田 績

主に白色レグホンや三河種の様な黄色い色を持つた鶏種について申し上げます。

まだ産卵を始めない鶏は体の各部の色が黄色をしてゐます。而して其の黄色の色は青葉や黄色の苞米に澤山含まれて居ます。それが卵を産むやうになるとその黄色の色素は卵の黄味の方へ移る爲に次第に褪せて白くなります。之に依つて産卵の状態が判るのであります。(血液の循環のよい所から)

褪色する順序は

産卵を始めてから褪色し始めるに要する日数

眼 目橙色、下脛―二、三日

肛 門 産卵前は小さく鈍三角形なるも、産卵時になれば長楕圓形となり太くなる―二、三日

耳 朶 すすいクリーム色がだん／＼白くなる。二、三日

嘴 口角から先の方へむけて白くなる、下嘴は上嘴より先に白くなる 十五日から三十日

充分褪色するに要する日数

十日

十日

十五日から三十日

る。一、二、三日

脛 前の上方からだん／＼白くなる。十五日―二十日

三、四ヶ月

大体以上のやうであります。産卵を中止すれば褪色した所が又もとのやうに黄色が出て來ます。其の順序は褪色の場合と殆ど同様であります。

産卵の状態を見分ける例を一つ二つ申しませう。

一、三四ヶ月以上産卵して後五六日乃至十日位休産したものは

脛―白、嘴―元の方が黄色

二、産んだり休んだりしてゐる鶏は

嘴―元の方黄―中頃白―先の方黄色、脛―黄色

次に多産鶏を黄色、色素以外の外觀で見分ける法としては

肉冠―中等大で分の薄くて表面の滑かなもの。色のうすいものは産みこんでゐるもの。鮮紅色は産

み出したもの。

目―活而して大(細長いものはよくない。眼が顔より出てゐるものがよろしい―出目)

嘴と爪―短くて大きいもの。

羽の光澤―ない方がよい(鶏が元氣で)

食 慾―大食の方がよい(朝早くから晩遅くまで起きて居るもの)

脚の裏―肉のついてゐない方がよい。

恥骨―うすくて軟らかのものがよい。

恥骨間は指三本。

龍骨(ヤゲンボネ)と恥骨の間は指四本。

腹の皮膚―薄くてやはらかのものがよい。

立たせて見る―産み出したのは腹がたれてゐるがだん／＼産みこんでくると巻上る。

六、料理 實習

沼 渡 部 順
田 績

味のよい米飯のたき方

お米一升につき一升二合五勺の水を加へ、釜にはバツキンをして蓋をし重石をなし

「始めチヨロ／＼ 中ドン／＼ ジワ／＼ たきで

のたき方をする。 火を引いて赤兒泣くとも蓋とるな」

のたき方をする。

鶏肉の水炊き

鶏肉を骨付きのまま、一寸位に横に切り之に大切れの大根を入れて水から炊き一時間半乃至二時間たつたら温きま、出します。此の場合大根おろしに二杯の酢を加へたるものにて付けて食べる。フーカテン

ユデ玉子の殻をとり別に細切れ肉、葱を入れ小麥粉を稍堅目にかきたるものに入れ此を玉子の衣として包み狐色になる迄油にて揚げる、皿に盛る時縦に輪切れとする。

チキンライス

フライ鍋に油を引き白飯、トマトソース、食鹽、胡椒を加へて充分温まる迄煎つて別に鳥肉、玉葱の煎りたるもの青豌豆等を混ぜ合せ、茶碗に入れ皿に抜き出して用ふ。

ドウナツツ

小麥粉にフクラシ粉を良く混ぜ砂糖、玉子を加へて水を加へながらウドンを作る時の様に捏ね、延べて型にて切りて油にて狐色になる迄上げる。

七、感想集

蜷 川 あ や 子

八月九日 午前七時三十一分大野町驛發、一行三十二名は片山村長、西山校長、竹内先生の諸氏に伴はれ勇しく出發、各自の顔には包みきれぬ喜びと決心とがあふれてゐる。東岡崎には郡農會の田村技手が待つてゐて下さる。左右前後から慈父に抱かれ、足どりも軽やかに一意種畜場へ。

緬羊のやさしい鳴聲に迎へられ、言ひしれぬなつかしさを覚えて門内に入る。寢室兼居間に當てられた養蠶室に少憩。正十時に入場式。場長先生のお力強いお聲に接しただけでもこの場の權威あることがうかゞはれる。村長さん、校長先生からは懇々とお諭しやら御注意やらをいたゞく。日課のあらましをお聞かせねがつてから場内一巡、それ〴〵係の先生から懇切丁寧に御説明をうけ、一時間半にわたつて場内を一わたり視察。

質素な食堂で晝食を終へて、午後一時から沼田先生の養鶏についてのお話を一時間承はり、二時から二班に分れて實習、第一班は養鶏場に、第二班は農場に。農場では青木先生御指導の下に伊勢薯の草取。五反歩の畑に一杯薯が植ゑつけられてゐる。赤土の上にとつしりと實習の第一歩をふみ出す。折から雷鳴をき、間もなく雨さへ加はる。降雨はけしいために蓑を借り作業をつゞける。バ

ラ／＼と笠に當る雨の音、時々サツと吹きくる一陣の風に心地よい刺戟を受けて仕事は捗る。草を引くとむくむくとくづれる土、誰も彼も嬉しさに話し合ひ乍ら前へ／＼と進む。降雨益々ひどくなり、残念乍ら引上げる。半分はビン洗ひ、他の半分は紙袋張り。器用に運び手先から時々笑ひ聲がこぼれる。豚が面白さうに遊びたはむれてゐる。どこもこれも平和そのものである。五時半再び一緒になつて、渡部先生から牛の飼料調合法を實際についてお教へいたゞいた。何もかも新しく珍らしい事ばかりなので、六時半、夕食の合圖で初めて日の傾いたのに氣がついた。半日額に汗して働いたおかげで夕食のおいしかつたこと／＼。入浴を終へれば間もなく八時。それから一時間沼田先生から毛織物の取扱についてお話をきく。終了後直ちに床に入つたがもの珍らしさと興奮のためなかなかねむられず、豫定の九時を二時間も過ぎる頃やうやく静かな寢息のみを聞くことが出来た。

八月十日 午前四時、起床合圖の鐘の音にはね起きた一同は手早く作業服姿の凛々しいでたちに身をかため、次の行事を待つ。その間に汚れた作業服などの洗濯をすます程の元氣を示す。午前五時神前に集合、朝の行事をなす。場長先生の指揮によつて禮拜。國歌合唱（國旗掲揚）皇國運動と緊張裡に進む。先生方と實習生と五十幾つの魂が一つに融け合つて、一日の貴い働を誓ふこの美しい集ひに参加し得たことだけでも私共の大きな喜びであり、感激である。行事を終へて濺瀾と宿舎に急ぐ若人の後姿に合掌したいほど尊いものを感じた。私共は感激と感謝をこめて「三和の乙女」を高らかに合唱して今日の勞働を誓つた。

朝食は場長先生と共にいたゞく。もうなれ切つた一同は全く我家同然何の遠慮もない。朗らかな笑聲が溢れる。六時から場長先生の講話。「有畜農業と婦人」と題して、有畜農業における婦人の力、眞の農業經營法など平易に丁寧にお教へ下さつた。

次いで渡部先生の畜牛の飼料に關するお話。九時から正午迄甘藷のつる上げ並に草取。瀧なす汗を拭ふ間も惜しく、せつせと働く。一同の胸にはたゞ働きの喜びが満ちてゐる。お心盡しの冷水に甘露にもまさる味を覚えて元氣百倍お晝の鐘がなつても立ち上らうとさへしない程一同の働きは身について來た。

午後の學科は渡部先生のお話。實習は昨日の逆。沼田先生が多産鶏の鑑別と實際について御指導下さつた。鶏冠の色、嘴、眼等一々御説明下さる先生の手先へ一齊に投げる視線、腹や恥骨、龍骨の工合等一々手にとつて教へていたゞき、次々と發する質問にもこゝろよくお答へ下さる。先生のユーモア、私共の方言丸出しの質問、爆笑、苦笑の連続……。又育雛、鶏の飼育等も丁寧に教へていたゞき、今までの方法にあまりに誤の多いのを覺つた。綿羊の飼ひ方、羊毛の取扱、利用等豊富な知識を興へられた一同は、追進神社の大前に今日の幸福を感謝して食膳につく。

夜は青木先生の大根に關するお話を承はり、九時から楽しい夢路を辿る。八月十一日 今日終日浅井先生について蔬菜料理の實習。同じ蔬菜と言ひ乍ら一寸した工夫によつてこれ程にも立派な料理が出来るのかと一同幾度となく感歎の聲を放つ。捨て去るやうな端片も生かせば一かどの役に立つものといふことを目の前にみせつけられ、私共農村における女子は考へ

直さなくてはならぬとしみじみ思つた。十數種の御馳走の前に並んだ時、再び感謝の念を禁じ得なかつた。

夜八時から感想を書いた。いらだ、しい程時は過ぎ行く。床に入つても最後の夜だと思ふとなかなかねつかれない。過ぎこし三日間を想ひ起して、お互の語り草はいつ盡きるともわからない。

八月十二日 いよいよ最後の日となつた。渡部、沼田兩先生から鶏肉、鶏卵を主とした料理及び簡易なお菓子の作り方を教へていただいた。

先づ鶏の解き方の實習から始まり、次々と無駄のない仕事が進められる。失敗を重ねつ、もどろやら半ば出来かけた頃、村長さんが農會長さんや各字惣代さん方を御案内しておいで下さり、私共の實習を微笑んで見て下さつた。食卓に並びきらぬ程澤山な御馳走を前にして、私共の胸は嬉しさではち切れさうだつた。

かへりの仕度を調べ、午後一時半から終了式。式場には入場式の時より一層眞剣味が漂つてゐた。式後追進神社の大前に四日間の御守護を謝する黙禱をさ、け、終了證書を手にして記念撮影をなし茶話會を開いた。場長先生の慈愛のこもつたお言葉に後片付もそこ／＼に歸途についた。「私共はこの四日間に大きな力を與へられた、この力を活かすことこそ我が家を、我が村を救ふことになるのだ。」と心に繰返しながら。

伊藤ふくの

まだ見ぬ土地を想像しながら岡崎の種畜場へと急いだ。種畜場の場内に入り其の廣いのに驚いた。開會式があり、場長先生始め各方々より御挨拶があり、非常時日本、三和農村を救ふは先づ乙女よ、乙女が此の種畜場に於いて學んだ事を村へ歸つて行つたならば、三和農村を救ふ事わけではない等の御教訓があり、私等の責任の重大さを感じ何となく心が引きしまつた。式がすんでから各先生が場内を御案内下さつた。何を聞いても見ても其の設備の完全なのや又面積の廣いのに驚き、今日から四日間此處で働かせていた／＼のかと思ふと心うれしかつた。晝食をいたゞいて休の後、いよいよ學科に取りか、つた。多産鶏鑑別、其の見分け方が簡單なのに驚いた。學科がすんでからは實習で畑の草取り、廣い畑も大勢の手で取ればしばらくの中に取れてしまつた。先生から同じ草を取るにも作物に同情する氣持で取りなさいと言ふ御話があつた。いつもこんな氣持で草が取りたいと思つた。

四時起床、身づくろいをすまして御神殿へと急いだ。掃き清められた御神殿の前に整列しては餘りの神々しさに我知らず頭が下る。あたりの静けさを破つて打つ柏手の音、のりと、君が代の合唱にて身も心も清くなつた。場内の方々の精力、親切も此處から生れたかの様に思はれる。神殿に禮拜して心爽かに學科に取りか、つた。

婦人と有畜農業について場長先生よりの講話があつた。

有畜農業と有畜農家の差、又私等農村娘としての結婚について考ふべき點を御話し下され、深く胸にきざみ込んだ。

午後 養鶏、羊毛に付いての實習が有つた。多産鶏の鑑別は實際に當つて見て本當に頭へ入つた様な氣がした。鶏のとき方、羊毛の洗ひ方、羊毛のつむぎ方等の實習があつた。

朝の禮拜を終へて朝食をすます。

今日は朝から料理の實習で先生として淺井先生が御見えになつた。先生は七八年前に三和村へやはり料理の講習に御出で下さつた事を承り、なんだか始めから親み深い様な氣がした。

今日は野菜料理にて材料は私達の家にて整ふ様な物であつた。同じ材料を使ふにしても一寸した頭の働せ方にて形の切り方調味料の加減をすればおいしくいたゞける様な氣がする。

實習を終つてからは一日の勞働を感謝し、先生の御親切なる御指導を感謝しながら御神殿に禮拜した。

○ 片 山 菊 子

八月九日七時三十一分大野驛發、九時半頃着、式十時、視察をし各々の先生が説明をして下さつた豫想して居たより大變に土地が悪いこと、いろ／＼の組織の立派なこと、土地の面積の廣いことな

どに驚いた。午後一時から二時まで多産鶏の鑑別に就いて沼田先生のお話を承りました。一、二組は實地多産鶏の鑑別、三、四組は畠の草取りであつたが雨が降り出して蓑笠にてり、しく働いた。

難儀では有りましたが一方には又愉快な心持であつた。よく降り出し袋はり。五時半頃から牛の飼料のやり方に就ての實習。夜は毛織物の取扱ひ、羊毛、木綿の洗ひ方の御話。

八月十日 午前五時霧におほわれつ、神前にて宣詞をあげ、君が代を歌つた心持はおごそかさ胸いっぱいであつた。六時半から場長先生の婦人と有畜農業に關する大切な御話。畜牛飼料は草部先生のお話。食べ物を澤山あたへれば立派な牛が出来上ると思つてゐたのは間違ひであつた。動物は親しくしなければならぬことがよくわかつた。午前九時から正午まで甘藷のつるあげと草取り。一人で長いうねを取るの中々の事であるが大勢の力と云ふものは強い物である。又其の通りによい三和村を作るには何事によらず一致團結が必要なる事を明かに知つた。一時から渡部先生の養豚に關する御話。實地多産鶏の鑑別に就いて。雄と雌の見わけ方を教はつた。又解剖なども教へていたゞいた。夜八時から青木先生の大根の作り方、漬物の種類。

八月十一日 神社參拜、實習生の方々の立派に体操が出来る事は一日の勞働が愉快に出来る根本だと思ひました。渡部先生の甘藷の蒸し方の實習。淺井先生と其の夫人の御二人にて農家の家庭に於て最も必要なるお料理を教はつた事は非常に嬉しかつた。三和村の畠は美合種畜場とくらべればよい土地であるから有畜農業をやれば何處でも充分な收穫が取れる事を覺ることが出来た。

大野驛發午前七時卅一分、神宮前で豊橋線に乗りかへて、いよ／＼憧れの美合種畜場へ向ひました。途中無線電信、矢作川等の景色を眺めつゝ、一同恙無く美合驛に到着し、約二丁程歩いて希望してゐた種畜場へ着きました。午前十時入場式、場長先生始め來賓の方々の祝辭がありました。式後は一同は場内視察、見るもの聞くものが壯大で設備が整つてゐるのに驚きました。午後一時より二時迄沼田先生から多産鶏の鑑別法を教はりました。二時から二組に分れ、それ／＼作業、私達は青木先生に從つて伊勢芋の草取りを致しました。青木先生はこんな涼しい日に草取りではいけない、もつと炎天でなければと言つておられました。一同は「何を言つていらつしやる。炎天であらうが雷雨が来やうが何をかまふものか、遊びに来たのではない、三和の乙女を精神を錬りに来たのだ」とかけで言つてゐました。やがて雷が鳴り、雨がほつり／＼と降り出しました。雨の中にも拘らず、青木先生始め村長さんや竹内先生も蟻川先生も一生懸命になつて草取りをしてゐられるではありませんか、講習生の私達が怠けてゐてはいけないと思つて、私達も二層熱心に働きました。其中青木先生が「もつ止めなさい。知多郡の女は偉い」と聞いてゐるが、成程感心だ。勇敢なのに驚いた」と言はれましたが、私はまだ／＼止めるのは惜しいと思ひました。それから私達第四組はビールビン洗ひを命ぜられました。研究生の方が一人来て、私達の仕事を手傳つて下さいましたが、其の方が三和村の戸數、面積及び米作何町歩、裏作何町歩、畑の栽培作物等其他色々と問はれましたが、はつ

きりと答へられませんので、私は非常に恥しくなつて來ました。五時卅分頃より渡部先生に牛馬の餌の調合法を教へて戴きました。茄子を切つて與へますと、牛は嬉しさに私の側へ接近して來ます。動物を愛すれば愛する程可愛くなるものだと感じました。六時半の鐘が鳴りましたので一同は宿舎へ歸つて楽しい夕食の膳に向ひました。入浴を済して、八時より九時迄沼田先生から羊毛の性質毛織物及び木綿物の洗濯法等いろ／＼親切に教はりました。學科も終り、一同愉快であつた一日のことを語りつゝ、楽しい夢路を辿りました。

八月十日 午前四時起床、早速仕度をと、のへて、追進神社の大前に集合致し、朝の禮拜を致しました。場長先生始め諸先生生徒方の神前行事を拜見し、昭和塾堂で行つた時よりも非常に愉快に感じました。一同何事も忘れて心の底まで清らかな氣分に成り、三和の乙女の合唱を濟し、おいしい朝飯を戴きました。八時より十時まで場長先生の婦人と有畜農業と題した講話、農業をするには家畜の力を利用し自給自足の精神で行はねばならない。自給自足の根本は女子の精神にあるとの講話でありました。私達はぐ／＼してゐる時ではない、雄々しくも社會へ出て、大いに奮勵努力し、新興三和村の建設に努め、延いて國家の爲にしつかりした土臺から築き上げなければならぬと思ひました。十時から全体甘藷の草取り、何しろ何町歩もある畑でするので、大勢が揃つて草取りするのも非常に愉快でありました。眞夏の暑さに顔から汗は遠慮なくたら／＼流れます。其の中に種畜場の方が冷たい水を持つて來て下さいましたので、乾いたのんどをうるほしました。午後一時より二時迄渡部先生の畜牛の御話。講話後沼田先生から羊毛の洗濯法、多産鶏の鑑別、雛の雌雄鑑別法

から實地について教へて戴きました。私の家は全々間違つてゐることが澤山あります。早く家へ歸つて御両親に教へて上げたくなりました。

八月十一日 今朝は朝から料理なので嬉しく思ひました。淺井先生について蔬菜料理の實習、蔬菜料理とは思はれぬ程立派な御料理が出来ました。私はあちこち歩いて質問等してゐたので案外つかれました。中には畑の草取りが面白いといふ方もありましたが、しかしそんな譯には行かない、私達は將來一家の主婦として働かなくてはならないから、料理の方面にも研究心を持たなければならぬと思ひました。

○
片 山 八 重 子

九日午前五時今日は講習會に出かけるのかと思ひますと体がだるくなるやうな氣が致しました。泥まみれになつて働き暑い日中を外で暮すかと想像したゞけてぞつと致しました。でも一度経験してと思つて講習會に入會したやうな事です。私の愚な事を笑へるだけ笑つて下さい。でももう見榮も外間もありません。種畜場へ来て私の服装に自ら笑はせられました。あんな草履などはいて、それに又足にまで怪我をして、今さらながら恥しくなります。

廣々とした大地に立つて、新鮮な空氣を吸ふ事だけでもどれだけ身体のためになる事だか知れませぬ。

教師方の熱心な御指導にしたがつて、又研究生、實習生の眞面目な勤勞を、目前にしてゐますと、自然に働かなければすまない様な氣が致します。都會の人が何です。立派な服装をして——。私達が働いてこそ都會に住んで行けるのですもの、顔が大きくなりまして暑くても涼しくなるやうな氣が致します。

又早朝神社参拜する時の神々しさ、それこそ精神が緊張し、一日愉快に暮れるやうな氣がします。夕方仕事をへてから神社にお禮を申す時のたのしさうな顔を見て愉快です。家畜は衛生的經濟的を考へ、飼料は自作のもの、肥料は自給に。三和村の農業は大部分自給肥料をまだ用ひてゐないやうです。もつと家畜を飼ひ、女子の内職をもつと多くし、有畜農家にならぬやう注意して有畜農業に改善し、自給自足を計らなければなりません。男子は田畑の改良をし、女子は家政經濟の改善を計り、又男子の助力になり、一家の繁榮を計り、今後ともより良き新興の三和農村を築きあげやうではありませんか。

○
片 山 つ ま 子

入場式をすましてから品の方を見せていたゞきました。畑の廣いこと、桑の木の大きいのには驚いた。三和村の人々もこの様に共同でやつたらどのくらい良い村になるであらうと思つた。

八月十日 起きた時そとをみれば霧が降つてゐて、遠くは見えません。早く起きるとなんだかきもちの良いものです。五時になりますと、もうそこらが薄明るくなつてきました。お宮様で君が代を歌ひ國旗掲揚しました。その時に太陽が薄明るくなつて参りました。

午後先生が牛を使つておいでになつて、私たちが休んでゐたら、あなた達もやつてみなさいとおつしやいました。一人二人やり出すと、みんなが我も／＼と手を出しました。私もやつて見ましたが皆のやつてゐるところを見てゐると、いくらでもやれるやうですけれど、やつてみるとなか／＼やれませんか。それから牛の乳をしほつてゐるところを見て、牛の顔をなで、やりましたけれどおとなしくしてゐました。

○ 片山ゆき子

九時半頃種畜場へ着いた。思つたより良い所である。十時から式が始まる。場長先生始め諸先生の講話を聞いてこゝへ来てこそ眞の農村の女子となることが出来ると思つた。

式後場内を視察した。牛、豚、綿羊等皆綺麗な動物である。手入れをしなければこんなにはなれない。視察が終ると晝食であつた。皆と一緒に大變愉快な晝食である。あちこちで笑聲が聞える。午後一時より多産鶏の鑑別法。早く家へ行つて見てやりたい。後養雞の實習、雞舎の所まで来た時雷雨になつた。家の方も降つてゐれば本當に嬉しい。羊の毛洗ひ、毛を少しづつ、戴いた。歸りに御土産にもつて行かう。夕飯もすまし入浴。本當に面白い。八時より一時間學科毛織物の取扱についての講話。

朝は四時に起きる。何だか家が懐しい。五時お宮へ参る。

場長先生の御話、婦人と有畜農業との題にて御話があつた。

有畜農業と有畜農家の區別がこれで分つた。儲かる有畜農業をしなければならぬ。後甘藷の草取り、家にてこんな早く引けたらと思ふ。午後熱いのには草削り、皆が競走でやる。四時頃休みの鐘が鳴る。休んでゐたら青木先生が牛をつかつて見よとおつしやつたので皆が順に畑を牛で耕した。始めは何だか恐い様な氣がするがだん／＼なれてやりたくなる。後乳しほり、不思議な位よく出る

料理 いろ／＼野菜物の料理、おいしそうな物ばかりであつたが、食べて見るといやな味のする物がたくさんあつた。御料理がよく教へて戴けた。

○ 片山之子

種畜場は大變によいと聞いてゐたが来て見て一層驚いた。あの畑の大きい事、その中には豆、梨、葡萄、トマト等あらゆる作物がやつてある。

九時頃から皆一齊に草取りをやる。家に居れば暑いだけの、口がかわいた等といつてゐるが、こゝで取つてゐると面白くてしらす／＼にうね草を引いてしまつた。そうして又次のをやる。

晝からは豆の草取り、目がかん／＼にあたつても暑いと云ふ事は誰一人いはない。牛や豚の居るところもきれいに整頓されてゐる。いくら畜生でも人が親切に仕入れ、ばおとなしいものである。私たちは牛に餌をやるにもおそがくてこまつてゐるが、一ばんやるともうおとなしいやうなきがす

る。

○

片山百合子

八月九日 朝七時三十分大野驛を發車した。十時少し前に種畜場へつきました。入場式が十時に
始り、後お晝迄に場内を視察しました。

何を見ても驚きました。農場の廣い事、家畜が澤山ある事、大きな草が生茂つて居る事私の豫想外
でした。午後一時間目に學科がありました。養雞に關するお話を沼田先生が詳しくして下さいました。
後實習に取りかゝつた。畑の除草中に夕立が來ましたので途中で止めて、ビールビンを洗ひました
洗つて居る時に村長さんが寫眞をうつして下さいました。六時半に夕飯を戴き學科を一時間やりました
私は今日の様にたのしく愉快に仕事の出來た事は、始めてでありました。何時までもくも今日の
様に仕事が出来たら其の日くの暮しても如何にたのしいものであらうかと思ひました。
共同作業の面白さは始めて知りました。夜もお互に顔を見合せてはわけはなくとも面白く夜のふ
けるも知らずさわいで居りました。先生から再三せわをやかれて無理に眠に付きました。

八月十日 起床四時、午前五時大變濃い霧の爲にあたりはほつとまだ薄暗かつた。其の中を場内の
神前で今日一日のおちかひをし、君が代を歌つた。途中朝日が昇るが如くに國旗が高くか、けられ
た其の時の氣持と言つたらたゞい、なあと直感しました。

午前六時から九時迄學科がありました。場長先生の有畜農業と婦人に關する御講話でした。お話を
き、まして動物がどの位人類の役に立つか、又言葉は言へないが人間以上に賢いものであると言ふ
事、婦人には強い力がひそんで居ると言ふ事等を明かに知る事が出來ました。次に渡部先生が畜牛
の飼料に付いて詳しくお話しして下さいました。學科後お晝迄畑の除草をした。晝飯後おいしい西瓜をた
くさん戴きました。

午後渡部先生が養豚に關するお話しして下さいました。後雞の多産種の鑑別、雄、雌、雞の見分け方等
を實地に教はつた。又孵化育雞機を始めて見た。先生が私等の爲に雞一羽を解体して体内の事に付
いて詳しく説明して下さいました。羊毛から糸を取る事、羊毛の洗ひ方に付いて實地について見せて戴
いた。私は實習後歸り道にてふと氣がついた事ですが、雞の遊ぶ所に植ゑてある木と外に植ゑてあ
る木との大小の差の違ひ、これが共に同じ年に植ゑたのださうですが、雞の遊ぶ所に植ゑてある木
は非常によく伸びて居たのです。此の様に雞糞がいかによくきくかと言ふ事が實際目の前で見ると
が出來ました。雞を飼はなくてはいけないと思つた。

午後八時より一時間學科があつた。青木先生が大根に付いてよくわかりやすくお話しして下さいました。
十時に皆一緒に今日一日のつかれを休むべくたのしい夢を想像しながら眠に就いた。
八月十一日 起床四時少し過ぎ、起床の鐘の鳴つたものを知らずに眠つて居り、ふと目をさますと
皆が起きて居たので飛び起きました。午前五時昨日の如く神前にて禮拜した。今日は一日中料理ば
かり有りました。午前は野菜物の材料を主として行つた。お晝前に料理したものは晝飯にみな戴き

ました。大層おいしい物もありました。午後はお菓子や玉子、鶏肉等を使つて料理の事を習ひました。先生は淺井先生と云ふのだそうです。一日中立つて居る時間の方が腰掛けて居る時よりも長い爲か農場へ行つて居る時よりもくたびれました。私は料理よりも外へ出て仕事をした時の方が非常にたのしく思へた。午後料理の實習をやつてゐる所を寫眞に取つて下さつた。私等今日で早や三日間の實地講習を受け、明日はいよいよ家へ歸るのかと思へばなんとなくまだ物足りない様な氣がします。

○ 神 長 き よ こ

木蔭懐しき夏の真中岡崎種畜場にて畜農業實務講習會を行はれ、私もその一會員としていたゞき喜びにたえませんでした。種畜場にて八月九日午前十時より入場式を行ひ、場長先生のお話を聞き今までの自分の行を恥しく思はずには居られませんでした。場内にゐる家畜が廣い／＼野原をかけまわり、伸々と楽しく動く事の出来るのも諸先生方が家畜を愛されるからである。農場の方でも何百貫と言ふ實を結ぶのも農場の先生が作物を可愛がられるからである。廣い畠の中で立ち働いた時農場の先生の働きぶりに感心致しました。四日間の講習を受けて故郷へ歸つて、場内の有様を目前に浮かべ大いに働かなければなりません。働こう、土を相手に働きます。百姓に生れた私はどこまでも百姓を熱心にやらう。老いも若きも手に手を取つて、農村三和村を立派に築き上げなければなりません。

○ 桑 山 巴

朝種畜場へ着いた。門の中へ入つたら何んだか蒸暑い。今日から此處で働らくのだと思へばいやなやうな氣がした。暑い炎天を通つて日影へ入れば重荷をおろしたやうである。畠の大きいことには驚きました。何町歩とある豆畑が向ふの端まで霞んで見えます。又いろ／＼の野菜や果物が大手に栽培せられて居ます。草かきで草をかい居れば南米にでも来たやうな氣がします。大勢でやれば愉快で知らぬ間に仕事が出来る。九日の夜は中々眠れなかつたのに。今朝は鐘の鳴るまでねむつてゐた。ほんとうの自分のやうな氣になつて知らぬ間に眠れてしまひます。朝早く起きる事は氣持の良いものです。豚舎も雞舎もきれいで中を通つても何も臭くはない。子豚の鼻先を揃へて來るのは可愛らしいものです。今まで豚々とばかりにして居たのが話を聞いてから急にすきになりました。

○ 栗 本 文 子

種畜場につきました。先づ荷物を置き、入場式に出た。場長先生始め村長さん、校長先生からお話し下さつたお言葉、其のお言葉は深く心にしみこんだ。式を終りまして、これから此所へ來たからには一生懸命に働かうと心に誓つた。廣い／＼所を次々に説明下さる。次の畠に廻つた。端から端まで見渡せば見えぬ程の畑、何事も此のやうにやらなければ出來ない。翌日四時に起き、作業服で五時には一同神前に集つた。あ、何とうや／＼しい清らかな心持でせう。今日も一日畠に行つて出

来る限り働いた。午後の作業は豆の草けづり、皆で揃ってけづる楽しさ。たゞ面白い。口が乾けば水を飲む、飲んでやる。しらす／＼の中に働くことの有難さがしました。

○
竹 内 き ぬ

八月九日 午後 多産雞の鑑別、玉子はどういふ雞がよく生むか生まないかといふ事は前に農業で教へて頂いたが實物に付いては今度が始めてである。私の家では餌をやるにもだいたいで今日はいわれた。それだけ家よりは経済である。私も今度からは自分に教へて頂いたようにして見よう。八月十日 四時起床、こんなに早く起きたのは始めてである。外はまだ暗い。身支度をして作業服で外に出る。神社の前へいくと暗くて見えないのに掃除がしてある。私も今日から三朝はこんなに早く神社参拜が出来るかと思ふとうれしい。場長先生が来られて参拜が始まった。私たちは何もしらないので見てゐた。朝二時間場長先生の學科があつた。學科は婦人と有畜農業であつた。婦人も先生のいわれるやうにやれるものであらうか。十時から草取、朝涼しい中學校をやつて暑くなると外へ出て草取、それをさかまにしたら、でも涼しい中に學ばないとよく覚えられないからでせう私は此處は仕事がいらいといふ事を聞いてゐたのに割合に樂であつた。何んでもえらいと思つて居てやると割合と樂である。午後は小豆の草取、午前は家でも同じであつたが午後は皆立つてかいていつた。

○
竹 内 た ね 子

種畜場——種畜場は何んな所であうと、私は好奇心をいだいてゐたが、とう／＼此處まで來られた。廣い畑が見える。そしてこちらの方には、幾つもの家がある。家のそばの草原には、羊が幾頭も／＼草をたべてゐる。此處が種畜場だ。私はすぐさう思つた。これから四日間此所で働くのだ。皆と一所に。何といふ楽しい事であらう。やがて私達は場内の一舎に荷物を置き、講堂に集まつた。入場式が初まる。場長先生も外の先生方も作業する様な服を着ていらつしやつた。働いていらつしやるのだ。私も來た以上は一生懸命に働けるだけ働くつもりである。式がすんでから先生方が色々な所を案内して下さつた。

牛の居る舎では三四人の方が懸命に牛に行水をしてやつて居られた。行水をする牛がよくなるさうだ。私の家は毎日やつてゐないから歸つたら洗つてやらうと思ふ。そしてお話を聞いてゐる中に、今更ながら牛が有難くもなり可愛いくもなつた。乳牛も大變澤山大きな乳を重さうに引きすつてゐた。牛のたべ物を保存して置く大きな漬物桶を見る。私の家も今草を刈つてためて置いたら何んなによい事であらう。

豚も廣い運動場に遊んでゐた。大きな黒い豚は泥をあびてゐた。案内の先生が草で追ふと太い体をころがる様にして走る。そして私達のそばへやつて來る。豚はきたないものと思つてゐたが、大變に綺麗であつた。手入れすればこんなに綺麗で可愛いものかと思つた。豚舎には子豚が親豚の乳

に五六匹づゝかきなり合つてゐた。

それから畑へ行つた。大きな畠だ。一枚が一町歩と云ふ事である。西の方に續く畠だけで十八町とは驚いた。トマト、ねぎ等も一町歩位はやつてゐる。二町歩や三町歩もやつてゐるものもあるさうである。桃、葡萄から梨、蜜柑等作つてないものはないと云つてよい位だ。午後養雞のお話を聞く。それから畠の方と雞の方と二組に分れた。私は養雞の方であつた。珍らしい事をよく聞いた。話を聞いたゞけでなくて實習をやるので、色々の事がよく分つた。郷里の方はこんな事を知らないでゐる爲に損な事をしてゐるのだ。歸つたら教へて上げやう。六時半頃に終つた。夜學に羊の事に付いて教はつた。一日は知らぬ間に暮れてしまつた。

第二日目四時起床 作業に出られる仕度をして場内の神社に集る。種畜場内の人は皆毎朝早くお参りし、運動なさるのだ。私は時間をきめて色々の事をするのがたまらなく楽しい。場長先生の婦人と有畜農業の學科。渡部先生から畜牛の飼料の學科を教はつてから甘藷畠の草取をする、口が乾いて困つてゐたら水を持つて來て下さつた。本當に有難かつた。

午後豆畑の草取をする。休んでゐる時先生が牛で畠を耕作する事を教へて下さつた。家へ歸つたら父を喜ばして上げやう。そして早く父に變つて出來る様にならうと決心した。

夜學に大根の事を教へて下さつた。今年私が大根を上手に作つて見やう。

第三日 朝からお料理、午前は氣持が悪くて困つた。あんなに色々ものが野菜から出來るのかと思ふと不思議に思へる。私も家でやれる様なのを歸つたら早速やらう。夢の間に三日間は過ぎてし

まつた。もう明日は歸へるのだ。何だか名残惜しい氣がする。

竹内 智 恵 子

待ちに待つた種畜場へ。電車でいろいろ想像し、種畜場はきつと岡崎の真中であつて只牛、豚、雞の純粹種を取り、手入する處とばかり思つて居た。此の種畜場に來て驚いたのは、廣大なる平野、悠然と草を食む牛、所々に綿羊が友と遊び廻る様、場中皆愉快で幸福に日々を暮す所と思ひました。開講式の時の場長先生の御話はいつまでも頭に残つてゐます。實に人々を救ふ所であると思ひました。午後鶏舎の方に多産鶏の鑑別をすまして歸る途中、場内に働く青年の仕事ぶりの熱心なものにほんとうに感心致しました。

二日目朝四時に起き、神様に参拜した。場長先生の御言葉に規律正しく整列し、君が代の歌と共に國旗が上り行く有様は實に神々しい。勇ましい、やまとぼたらしきを以て楽しく終つた。以後大勢で草取、暑さ忘れて面白く芋の草取、愉快でした。午後は豆の中の草けすり、一生懸命でたゞ／＼楽しく一日を過した。

三日目朝から御料理、いろ／＼とよい御料理ばかりで、お晝おいしく戴きました。午後もきれいな御料理で、夕飯に頂戴致しました。今日は愉快に楽しくそがしく暮れました。自分達はこうした此の場内で嬉しく日々をおくる事が出來て、何よりの幸福と胸がおどる喜びです。歸宅後も此の場内においての氣を忘れず三和村の發展のため有畜農業に従事しはけます。

種畜場へ来て見ると話にきいたよりも、思つたよりも、もつと廣い所でした。そして何もかも大じかけです。こゝいふ風にやれば何でも良いと思つた。先生に鶏の話を書きました。鶏を見て先生は字もなにもかいてないのに、この鶏は何號何號と言ひなされるのでびつくりしました。

第二日 朝起きて見ると、霧が一面に降る居るので、雨でも降らんと良いがと思ひました。神様へおまいりする鐘がなるので皆がおまゐりしました。男の人は元氣よく体操をやりました。場長先生に婦人と有畜農業の話を書きました。今度は畑の草を取つたので、あつくてこまりました。

第三日 今日には鐘の音にびつくりしてはね起しました。朝から晩まで料理でしたから、色々な珍しい御馳走をいただきました。

種畜場へ参りまして先づ第一に感じました事は、思つたよりも場内が廣いといふ事で御座います。午前十時より入場式が行はれ、場長先生や村長さん並に校長先生より非常に有益な御教訓を承りました。晝食迄場内を參觀致しました。そして又設備のよく整つてゐるのに驚きました。畑は全部で十八町歩あるそうです。牛、豚、綿羊、鶏等色々の家畜が飼育されてゐます。鳥等も一枚が一町歩、或は五反歩といふような大きな鳥ばかりです。私はこんな大きな鳥を見たのは今日が始めてです。

正午晝食を戴き、午後一時より二時迄養鶏のお話を承りました。そして二時より畑の草取りを致しました。約半時間程取ると、突然夕立が來ましたので、草取りを止め、五時半頃迄袋張りをやりました。それより牛に飼料を與へる事を教へて戴き、六時に仕事を止めました。場内の神様に禮拜し、夕食を戴きました。八時より九時迄綿羊のお話及び織物の取扱ひ等を教へて戴きました。十一時に就寢致しました。

十日午前四時起床し、身の廻りを整へ、五時皆が揃つて場内の神様に禮拜致しました。五時二十分に朝食を戴き、六時より九時二十分前迄、場長先生から有畜農業をするには婦人の力が必要であるといふお話を受承りました。そして凡て農業をするには、有畜農家でなくて有畜農業でなければならぬといふ事を感じました。九時二十分前より渡部先生に牛の飼料に就てのお話を十時十五分前迄承りました。それより晝迄甘藷の畠の草取りを致しました。其の畠が實に大きい事と何事も共同してやればこんな仕事に携るものかと共同の力の偉大なる事を深く感じました。正午に晝食をすまし、午後一時より二時迄、渡部先生より豚のお話を承りました。そして見た所は汚れてゐても決して嫌らつてはいけない動物であるといふ事を感じました。二時より沼田先生から多産鶏の鑑別法及び羊毛の洗濯法と其の糸のつむぎ方を教へて戴きました。尙鶏を解体する事を承り孵化育雛等も教へて戴き六時にお別れ致しました。それから場内の神様に禮拜し、夕食を戴きました。入浴をすまし、八時より九時迄青木先生から大根の作り方及び澤庵漬の漬方等を教へて戴きました。そして十時に就寢致しました。

十一日午前四時に起床し、五時皆が揃つて神様へ禮拜致しました。五時二十分に朝食を終へ、六時より午後六時迄野菜料理の實習を致しました。料理の先生がいらつしやいますのが遅かつたので、渡部先生より蒸甘藷の作り方と白御飯の炊き方を教へて戴きました。九時頃先生がいらつしやいまして、それより色々の野菜料理を教へて戴きました。お晝には其の御料理を戴きました。でも私は餘り食べられない御料理なので別に美味しくは感じませんでした。お晝の体みには廣々とした場内を見物致しました。西の方にはまだ澤山開墾する土地が御座います。そして私はこんな廣々とした所で長く働いてゐたらどんなに後の爲になるだらうと感じました。

○ 竹 内 久 子

八月九日 午前九時岡崎種畜場へ着きました。着くと直ぐ荷物を置き講堂にて入場式がありました。終つて後場内視察。それ／＼掛りの先生からいろ／＼親切に教へて戴きました。先づ畠の多い事には驚きました。一枚五反歩といふ大きい畠が何枚も／＼續いてゐる。私たちの方にはそうした大きいのは少しも見られませんが。その畠には牛馬の冬の食物等が植ゑてあつた。それらが熟するとそれを積んで置くのださうだ。すみからすみ迄植ゑてあります。こうした所を家の人々に見せて上げたいと思ひます。

八月十日 朝人に起きたので目がぼんやりして、眠くて／＼困りました。先生は四時十五分前とおつしやつた。顔を洗つて神社へお参りに行きました。境内は綺麗に掃除してあつてなんとなし

に氣がひきしまつて心持がよかつた。

お参りしてから場長先生と青年の方々が一しよにやまとばたらきをなさいました。勇ましい掛聲が

遠くまで響き渡りました。体操がすんだ後で私たちも三和乙女を歌ひました。ひるから畠の草刈に行きました。三五行削りましたが、餘り暑かつたので、一たんいやになつたが竹親先生が草刈を持つておいでたので精が出て來て一生懸命で削つたら、直に一枚削れてしまひました。一休みになりました。其の間に牛耕の仕方を教へて戴きました。

八月十一日 夕飯を食べ風呂に入つてから、夜皆と外へ見物に行きました。門を出て東の方へ行きましたら、しんとして何だかおそろしかつた。長いと思つたが、もう明日半日で家へ行くのだと思ふと何時迄も／＼ゐたいやうな氣がします。

○ 都 築 玄 げ ね

名高い岡崎市種畜場に於て、私たちの農業の基礎を仕上げて頂くことは此の上もないうれしいことです。講堂で入場式を行つた。村長さん校長先生場長先生等の御言葉に深く感じた。入場式を終へて場内を一通り御案内して頂いた。農場の廣大なること、牛馬、室内の清潔なること、農具室の道具等設備がよく行きとゞいて居りました。朝神社の前で禮拜し、體操を行つて食事につくといふ習慣は實に感心しました。畠の草取も三十名餘りの人が一所に揃つてすることは楽しい事であります。

朝七時半に村長様校長先生始め女子青年と御一しよに有畜農業實務講習會に参加のため出發致しました。いよ／＼種畜場に入りました。そうして十時に入場式。場長先生、村長様、校長先生はいろいろと御訓戒を下さいました。十一時より場内の視察をしました。

こうして場内をいろ／＼と御案内を戴きまして、牛、馬、豚、綿羊、鶏等につき飼ひ方、育て方を御親切にお教へ下さいました。畑の作物果物も見せて戴きました。其の畑の全面積は十八町歩も有るさうです。正午の食事を戴きました。學科をやりました。農事實習にかゝりました。少しやりましたら、夕立が降つて來ました。第四組の者は、ビールビンを洗ひました。其所にはトマトソースを製造す大仕かけな機械がありました。そうして牛乳のしほり方の實際を見せて頂きました。牛の餌の飼ひ方も見せてもらひました。そして六時半に夕食を戴きました。場内のすべての物が整理整頓してありました。此の一日を愉快に過しました。

十日朝四時に起床し、それ／＼の仕度をと、のへて、五時に神様の前で整列し、恭しく禮拜を致しました。三和の乙女の歌を歌つて歸つて朝食を頂きました。六時より場長先生の御話をいろ／＼と聞ききました。午後豚の御話を承りました。二時より六時半迄鶏のいろ／＼と實地方面を教へて頂きました。そうして綿羊の實習もやりました。綿羊のお話等をきいてゐる中次第に面白くなつて少くも一月か二月こゝで活動して見たいと思ひました。

十一日 朝時間の鐘が鳴つて私はびつくりしました。外部の方を眺めて見ましたら早や薄明るくなつてゐました。そして昨晩より今朝は遅く起きましたので、私は此の位だと家ではまだ暗い／＼と言つてまだ寝てゐるのにと心の中で思ひました。昨日の様に神前へ御参拜しました。午前六時から蔬菜料理を教へて頂きました。澤山の料理を簡易に一々御教へ下さいました。晝晩にはこしらへた物をおいしく戴きました。いろ／＼な習つた物の中でも簡易の物を家でやつて見やうと思ひました。こうして先生始め三十一名の者が一日もかゝさず無事に働きました。そうして場長先生始め皆々様のいろ／＼と御親切にお教へ下さつた事を永久に忘れず、あつばれ三和村女子模範青年になるやう努力いたします。

日頃家に於て種畜場の雄大なる農業のやり方を父や兄に聞く度毎に私は現代の農業としては有畜農業でなくては駄目だと思つてゐた。あ、私は有畜農業が大すきだ。なんと言ふ天のめぐみでありませう。あの有畜王國で講習會とのしらせ。私は飛立つばかりの思ひで九日の日をどんなに待ち遠しく思つた事でありませう。來て見ればなんと愉快な廣大な地面又雄大なる畜舎や放牧場なんとも言ひようのない廣さ、農場生活に驚きました。動物と自然を相手に働き、動物を愛し、動物を尊敬し、奉仕する様を見て、なんとなく誇を正し頭を下けずにはゐられませんでした。

愛する爲に働ませう。愛する爲に考へませう。愛する爲に祈りませう。私は實に動物愛護の精神がはつきりわかりました。廣い場では畜牛に養豚、養鶏、農場、皆それ／＼の先生のあり、視察員又は講習生に説明をせられ、何事も有畜化したやり方を非常に感じました。又朝の神殿行事、あの神々しく神前にて毎朝實習生のする皇國運動又國旗のしづ／＼と上る所の光景、一日の労働を一日の幸を祈るあの神々しい皇國精神こそ國家を救ふ力だ。働け！國家の爲だと深く／＼感じました。一日の労働を終れば、又神に一日の幸福を感謝して夕の幸を祈る。勤勞精神修養場に於て自分は、物皆愛を持って育てたならば、どんな植物でも動物でも、又愛はかならず返すものである。愛すればこそ勤勞主義をあげはふものである。愛を感じてこそ勤勞の自覺を計る事が出来るのだと私は自分一人でうなづくのである。なにしろ當場の如く廣い地面を有した土地もないので、小さいながらも動物を深く愛し、又尊敬し、有畜化した農業をやらうと考へました。家畜なければ農業なしだと深く深く感じました。農家を救ふには有畜農業でなければ救ふ事は出来ないのだ。新興三和村を救ふにも有畜農業でなければならぬのだ。村が生れれば國家の爲だ。

西 本 玉 子

八月九日 午前九時岡崎へ着きました。電車から下りて種畜場へ來ると直ぐ式が始る。校長先生は私達に向つて、三和村として始めであるから、皆様どうか一生懸命に此の四日間を暮して下さいとお話せられました。私は高等科でたつた一人遠い所からわざわざ／＼來ただけだから、出来るだけ働かう

と思ひました。直ぐ様作物や家畜を見物に行きました。どこ迄行つても廣々とした平原、何所の桑畑を見てもよく茂つて居て中へ入るのが恐ろしい程です。どんな野菜でも作つてない物はない。

すべてが非常な大仕掛に出來て居る。故郷に待つてゐる親兄弟にも見せたいと思ひました。八月十日 今朝はしらぬ間に起きれました。多分四時であつたらう。床を片付け、自分の身のまはりの事をし、五時神様へ参拜に行きました。種畜場の生徒達は皆揃つて参拜し、續いて運動をする其の綺麗な事は故郷では見えない。又場長先生の聲が天地に響き渡る。私は其一言を聞いて驚ろいてしまいました。

八月十一日 朝起きて昨日の様に参拜をしました。朝から料理にかゝりました。私はこのやうな料理は見た事なし聞いた事位ですから勿論食べた事ありませんから、ちよつと見ただけで胸に一杯に成つてしまひました。晝になつたとて食べれないので、御飯とおつゆとで食べましたが、常よりもよく食べれました。入浴をすましてから五六人の友達と種畜場の外側を散歩して來ました。寄宿舎では此所の學生が夕飯を食べて居ました。

牧 野 ふ く ゑ

八月九日曇天 待ちに待つたる八月九日。今日から有畜農業講習會の日で有ります。眞心こもつた場長先生、村長さん、校長先生等のお話を承りまして、私共の心は一層緊張しました。場内を案内して下さつた時には、餘りの廣さに驚きました。又學科の時間を終へて養鶏の實習にかゝつた時に

は、何だか自分の心が明るくなるやうな気がしました。鶏の産卵の見分け及び飼育、羊毛の取扱ひ、ひなの時のおん鶏めん鶏の見分け方等を沼田先生が色々説明をして下さいまして、今までに聞いた事のない知識を受けまして、本當にうれしく思ひました。私は遠くはなれた種畜場に、講習生として参加させて戴いたのを心から喜んで居ります。何時も長いと思ふ一日も今日は短き日に過しました。

十日 晴 今日朝から日本晴で有りました。朝早く禮拜をすまし、午前中に三時間程の學科を學び、其後さつまいもの草取をしました。何に付けても大きな畠ですから、大勢揃つてやりましたがとても取ることは出来ませんでした。皆が楽しく話合ひ乍ら精出したので、お晝も知らぬ間に來ました。晝食後大きな西瓜を出して下さいましたが、大變おいしく戴きました。

午後は渡部先生が豚のお話をして下さいました。昨日半分に分けられた私達は、今日は農場の方をやりました。豆の草取をやり、又牛で畠すきの後おしを教へて下さつたので、私も始めてやりました。又草取をした後、牛の飼料の合せ方や餌の分量、牛乳のしほり方等を説明して下さいました。其の中に時間が來ましたので、神様に一禮して、夕食をおいしく戴きました。農家に生れた私は今まで都會に生れた人々を羨やましく思ひましたが、今日農場長先生のお話を聞き、農家に生れて仕合せで有る事をうれしく思ひます。此の廣々とした農場に、大勢で面白く愉快に早二日間を暮しました。十一日 晴 今朝は四時の鐘の音を聞いて飛起きました。仕事の服装にて神様に禮拜をすまして、食事を戴きました。次に料理の實習に取りかかりましたが、淺井先生がまだお見えにならなかつた

ので、渡部先生が其の中教へて下さいました。一時間程立ちますと、淺井先生が御夫婦にてお見えになつて、色々料理方をお教へ下さいました。今日は一日料理の實習をして、大變面白う御座居ました。色々出來上つた品を晝はおいしく戴きましたが、夕食は残した物も有りました。私は今日實習をしながらも、三和村にこゝいふ料理等の實習が時々有つてほしいとつくづく思ひました。明日は此の種畜場から修業證書を戴いて歸るのかと思へば、何だか恥かしく思ひます。

○ 松山よし子

八月九日 偉大なる場門に入る。式をすまして農場を見學に行く。なにを見てもおどろくばかりでした。畑と言ひ動物と言ひ皆おどろきます。ことに牛の如きその美しさはとても言へません。

八月十日 いもの草取り、皆が揃つて面白く愉快そうに取出す。三和村の草とは變りありません。パン草、スベリ草など一面であつた芋畑は、美しく取り除かれました。又午後三四時頃牛の餌をやりましたが、大きな目で、じろつと見る時は、こわくてふるえて参ります。牛は餌がほしくて因つてゐる所でしたので、頭を出してパケツをなめに來ます。それに家にもゐないしするのですからおそろしくてたまりませんでした。

八月十一日 朝早くから家事實習で、いろんな事を教へて戴いたり、作つたりしましたが、私達の口にはあはないと見えて、大方の人は食べかけであつた。私達は百姓なので、餘りにあまい物は食べられません。大變たくさん聞いたり習つたりしても、皆一つなしに覺える事は仲々むづかしいか

ら家で出来る物をよくおほえて、歸つたならばお土産に作つて見ようと思ひます。

○ 水 谷 し ず ゑ

八月九日 種畜場に着し、入場式を十時にすまし、お晝まで場内を見せて頂きました。廣々とした畠に甘藷や隠元豆や葡萄や梨等澤山作つて有りました。今日からこんな氣持のよい所で皆と一所に働けるかと思へばうれしくなつて参りました。お晝過ぎは鶏についてお話ししました。鶏には色々の品種があるのだから區別をしておいて、どの品種がよく産むかを見るのも面白い事と思ひました。

八月十日 朝薄暗き中に床を出で、かるくしく身仕度し、うやくしく皆と一所にお宮様へお参りました。其の時霧の中から聞へてくる鐘の音、それは何とも言ひ様のない心持だつた。午前中は畠の草取りだつた。暑いけれども一生懸命に皆と一所に働く事は楽しかつた。お晝も又一所に御飯を頂き、午後も又畠の草取りだつた。青木先生の指圖でやりました。牛も一生懸命には一は一言つて働いて居ました。廣い所をこんなにも澤山やつてどんなにかえらいこととせう。自然と助けてやりたいやうな氣がわきてきました。その中に、仕事の終の鐘が鳴り、牛も重さうな足をひきづりながら自分の小舎へもどつて行きました。水をのみ、體をふいて頂き、そして私達が餌を計つて與へれば牛は喜んで其の餌を食ひます。頭をなげてやれば喜んでおとなしくして居ました。なればなんともないと思ひました。そうして居る中に鐘がなり、神様に御禮を申してごはんも頂き、おゆを

すませば、一日のつかれも忘れられました。

○ 水 谷 す ゑ

私は諸先生の御蔭で、有畜農業實務講習會をお受け致しました。種畜場内に入つて餘りの廣さ整理整頓のと、のつてゐる事に深く心をうたれました。私は今まであまり有畜農業のことなど考へてゐなかつたが、先生のお教へを受け、初めて農村の有難さを知りました。特に養鶏の實習で、多産鶏の鑑別、孵化育雛、其れくわしく御教へ下さつて、早く家の人知らせ度くなりました。

又女子とし相應しい御料理をも教へていただき、ほんとうによかつたと思ひます。これからの農業は何處までも有畜農業、自給自足で進まなければならぬと深く感じ、農村に育つ私は此の精神で將來農村三和村の名を上げる覺悟であります。

○ 水 谷 つ た

場内にはいる時皆さんの嬉しそうな顔付、此の四日間を種畜場の人となつて大いに働かして勤く喜びに満ち伸び／＼とした氣持實に愉快でした。此の前視察に來た時とは全く別の感じがしました。入場式もすみ、場内を一々先生方に説明して戴きました時、見るもの聞くもの其の偉大さ、設備の整つて居る事にほんとうに驚くものばかりでした。又場長先生から婦人と有畜農業についてお話し下さいまして、ほんとうに婦人に有畜農業の精神の必要である事、又實際やらねばならぬ事をし

みく／＼と感ぜられました。多産鶏鑑別、養牛、養豚等についても色々お教へ下さいまして、ほんとうに有意義に暮す事が出来ました。又お料理等も實際をやらして戴き、最も手近な材料でおいしく作り、皆さんと一しよに味はひ乍ら食べた愉快さ、忘れる事が出来ません。まだほの暗い時神前行事、諸先生初め研究生方と一しよに、一日の労働を神に誓ひ、晩には感謝し神様を中心として自然を相手に働く農業生活の其の尊さを、しみく／＼と感じました。皆さんと凛々しい姿で農場で働く時、大勢の力で面白く養笠で草取りをやつた時も、別に冷たいともつらいとも思ひませんでした。作物に慈悲の心をもつてすれば尊いものであるといふことを覚ることが出来ました。

水谷はるの

先日から楽しんで居た種畜場へきました。入場式をすまし、それ／＼掛の先生が場内を案内して下さつた。其の面積の広いこと、家畜の多いこと、ほんとうに感心しました。晝食をすまし、農場に出て長芋の草取りをやつてゐると途中に雨が降つてきたので、つほ洗ひをやりました。第二日 早朝禮拜をすまし、朝食がすむと、牛の飼ひ方の話をききました。次に農場に出て芋の草取りをやりました。晝食をすまし、養豚、多産鶏、毛織物などの話をきいて、此様にやつたならばほんとうによいと思ひました。夕食入浴をすまし、又夜は大根のつくり方と大根の漬方の話をききました。

第三日 起床後禮拜をすまし朝食がすむと、朝から色々な料理の作り方を教へていたゞきました。わずかな原料でほんとうにおいしいものが出来ることにならへてうれしい。もう種畜場に居ることも明日ばかりになりました。

皆川りの

私達女子青年三十一名は、先生方に連れられて九時半頃に種畜場に着きました。十時に入場式が始まりました。場長先生村長さん校長先生方に色々熱誠のこもつた御言葉を承はりまして、私は非常時日本、小さくは三和村を救ふには、どうしても女子が目覚めなければならぬと深く／＼感じました。場内に見えます先生方に場内の畜舎、鶏舎、農場等を案内して戴き、どれもこれも規模の大なる事に驚きました。青木先生の御話によれば、農場の面積十八町歩とか全く驚くの外ありません。一時より多産鶏の鑑別につき講話を聞きまして、私にも今すぐ出来る様な氣が致しました。二時より農場にて草取りをいたしました。雨が降つて来ました。其の時青木先生の御話の中で私の強く感じましたことは、草を取るにも何事をするにも精神が一番大切だ。親が子供を愛するが如くに作物にも親切にしなければならぬとお言葉でした。私は成程と思ひ、何事にも感謝して當らなければならぬと深く感じました。これも種畜場へ来ました御蔭と思ひました。夜は沼田先生から毛織物の取扱につき色々御話を聞きました。私は縣にて立てた種畜場の大きな事に驚き、先生方の熱心には感謝致しました。日本にも此の様な立派なる所がありますかぎり、農業の亡びる様な事はなく、女

性としても今後は一層に農業に務めねばならぬと強く身にしみました。

第二日 今日は朝四時に起き、五時には場内に御祭りしてあります追進神社の前に行き、神前行事を行ひました。神殿には外宮、内宮様が御祭りしてありまして、神様に國家の爲、種畜場の仕事、私達の働が無事に一日暮れます様にとの御祈りをいたします。その時にはなんとなく心がしまり、今まで自分の情けて居た事を神様にたいして恥かしく思ひました。そして練習生の熱烈なる精神に今は一層胸を打たれました。私達は三女の乙女の歌を歌ひ、神社から歸つて朝御飯を食べ、二時間に亘り、場長先生より婦人と有畜農業と題しての御講話を聞きました。私は本當に女性としても少し畜産についての考へがなければならぬと深く思ひ、又場内には華族様が平民と共に働いて居られると聞き、農村に在りながら、農村をきらつて居ることが恥しく身に泌みました。八時より渡部先生の畜牛の飼料についての講話を聞きまして、我々農村はもう少し自給飼料に努力が必要だと思ひ、金肥を省ねばどうしても農村は成立たぬと思ひました。午後一時よりは養豚につき色々講話を聞きまして、農村では豚を飼ふ必要が大いにあることを覺りました。二時より沼田先生について孵化育雛、採卵鶏の飼育、羊毛の利用など實際に教へていたゞきました。緬羊から上る収益の多いといふ御話を承はり、私は一番女性にとつては有益な仕事だと思ひました。私はほんとうに広い場所がありますならば飼ひたいと深く思ひます。一日の仕事がすみますと、神社の前に行き、一日の仕事につき感謝を致すのです。

第三日 本日は朝から岡崎市に見へます淺井先生に色々なる料理を教へて戴きまして、私は本當に

自家産の物にてあれ程の料理が出来るのかと感心しました。私は家に歸りまして種畜場で今まで見た事聞きました事を少しなりとも實行したいと思つて居ます。そして三和村の發展のために務めたいと思ひます

○ 村 上 き り

八月九日から四日間種畜場の人として働きました。日頃岡崎の種畜場の事は聞いてをりましたが、始めて来て見て、色々な設備が何から何までも皆共同的に工合よく出来て居る事には驚きました。こうした廣々とした所で、四日間三和の乙女と一緒に働くのだと思つた時の楽しさ、もう何とも言ひやうがありません。第一日はわけなく暮れて静かな朝になりました。朝は四時の起床で、お顔を洗つて、髪を結つて、實習生と一緒に神様にお参り致しました。其の時の氣分は何とも言ひやうが御座居ません。あ、して神様にお参りをして心を引しめ、又今日も一日無事に暮れる様にと心の中でおいのりをして働く心持は、種畜場に居る人でなくては味ふ事は出来ません。私はほんとうに種畜場は大すきです。場長先生始め諸先生の方々は、私達に百姓はこうでなければならんと言ふ事をくわしく教へて下さいました。私はほんとうに自分が恥しくなりました。そして私達もこれから大いにやりますと心の中で誓ひました。此の有畜農業實務講習會は短かつたが、一生忘れる事の出来ない意義ある講習會でありました。

私達の希望の種畜場に到着し、先生方に案内され、牛、豚、綿羊等を見せていた。これらのものは今迄たゞ汚いものだと思つてゐたが、可愛がればこんなにもなつくものであると感心した。畑の廣さは十八町歩もあるとか、一杯の畑がかすんで見へる程である。養雞は女の仕事としてやらなくては、これから農村が疲弊するばかりである。多産雞の見分け方も教へて頂いたことだから、これから大いにこの方面に努力しやう。

第二日 四時に起床し、神様に禮拜した。朝食をすまし、婦人と有畜農業の話聞き、農村としては自給肥料をつくり、土地をこやし、作物を上手に作らねばならぬと思つた。實習の芋の草取りをする時の暑さ、額からは汗の玉がおちる。晝食の味は何とも言へない。豚は汚くて見ることもいやだといふが、元來豚の氣質は綺麗好きのものだと云ふ。

第三日 料理の實習、蒸甘藷の水加減の要領を教へて頂いた。ほんの少しの材料でも一寸工夫すればこんなによいものが出来るかと思へば今迄同じ材料を利用し乍ら、味なくして食べてゐた自分たちが恥しくなつた。

有畜農業實務講習會 八月九日 此の日ほど待たれた日は有りませんでした。だが、此の盛夏に農

場にて實習なんて暑いですね、いやになつてしまひますわ、と言ふ愚かな心をいだいて來た。私は場長先生を始め皆々様の御言葉、非常時の日本、農業で立つて行くみずほの國、現代の農業の根本は婦人である、國家の爲大なる決心を以てやらなければならぬとお話をき、今日國難を救ふのは私達現代の青年である。又小さくは今更生しつゝある三和村をしつかりいたいて立つて行かなければならない私達女子青年の任務は重いのだと強く感じました。私は今までの自分を考へずにはおかれませんでした。種々お話を聞きました時、恥かしくなげなくなり頭は次第にうつむいて行きました。先生方の御親切なお心づくしの嬉れしさを胸にをどらせながら、廣大な農場にて實地に取りかゝりました。少したちますと雨が降つて來たので、蓑を着てやりましたが、とても駄目になりましたので、紙袋をはりました。生徒さんも二人一緒にやつて下さいましたが、皆眞剣で親切、仕事に熱心なのは何と言つてよいやら言葉が出ませんでした。

朝四時に起き、五時迄に神社に集り、心を清め、今日一日を熱心に動きますと神様にお誓ひし、君が代を歌ひ、三和の乙女の歌を歌つて神前をさがり、朗らかな心にて朝飯を戴きました。有畜農業として現代の農家に必要な鶏、綿羊等を教へて戴きました。

多産雞の鑑別を教へて戴きました時、自分の家に居る多くの廢鶏を走つて行つてつかみたいやうな氣がし、今まで餌をやつて居たのが勿体ないやうに思ひました。又鶏の御料理、農場で取れる種々な蔬菜料理を教へて戴き、御馳走になりました。

先生の服装、講堂その他の建物等の質素なものには胸を打たれ、感心せずには居られませんでした。何だか皆々様とお別れするのが悲しく、出来ることなら一ケ年もおいて戴きたいと思ひました。先生方がもう明日は歸へりますね、お歸へりですなとおつしやいますと、何んだか胸がせまつて來るのでした。又誰か、髪でも引つばつて居るやうな氣が致します。こんなに名残りの惜しまれるのは始めてです。これは皆々様が親切にして下さつたからだと感謝致たさすにはおられません。

昭和八年十二月十日印刷
昭和八年十二月十五日發行 (非賣品)

編輯兼 發行者 三和村農會

右代表者 片山銀右エ門

印刷者 高橋鏡五郎

名古屋市中區南吳服町二丁目

愛知縣知多郡三和村役場内

發行所 三和村農會
三和村女子青年團

終

